

### V34c JVOの研究開発（JVOポータルでのデモンストレーション）

田中昌宏、白崎裕治、川野元聡、本田敏志、大石雅寿、水本好彦、大江将史（国立天文台）、安田直樹（東大宇宙線研）、増永良文（お茶の水女子大）、石原康秀、堤純平（富士通）、中本啓之、小林佑介、坂本道人（セック）

バーチャル天文台（Virtual Observatory; VO）は、世界中に分散した天文データアーカイブを統合し、あたかも全天・全波長を同時に観測できる天文台のように利用することが可能なシステムである。

JVOプロジェクトでは、これまでに、国際連携に対応した天文データ・メタデータ検索・交換プロトコル等のVO基盤技術の開発、実際に分散データベース連携をおこなうデータサービスやポータルサイトの開発などを通じて、JVOプロトタイプシステムの構築をおこなってきた。本年度は、まもなくおこなわれる部分公開に向け、実際の利用に耐えるシステムとなるべく、JVOシステムの性能向上および機能拡張をおこなった（大石の講演参照）。その中でも、ユーザが一連の処理手順をワークフロー言語で記述し、それを実行する機能を新たに開発することで、より自由度の高い検索・解析処理の実行が可能になった（川野元の講演参照）。これにより、QSO周辺環境の統計的調査（白崎の講演参照）といったサイエンスケースの記述が可能になった。

本発表では、会場にて実際にJVOポータルシステムに接続し、サイエンスケースを実演することにより、JVOシステムの機能や利用方法を紹介する。